

2017 年度プリプレス研究会例会

ICT の活用で進化するプリプレス

先駆者に学ぶ最新事例 ～やってみてわかったこと～

第4次産業革命ー。IoT、ビッグデータ、ロボット、人工知能等による技術革新が大きな波となって押し寄せている。経済産業省では、このブレークスルーの筆頭に「大量生産・画一的サービスから、個々のニーズに合わせたカスタマイズ生産・サービスへ」を挙げている。まさに今、印刷産業の構造や戦略の変革が問われている状況であろう。

本年度のプリプレス研究会例会は、ICT (Information Communication Technology) の活用によって顧客ならびに自社の課題解決に立ち向かう「先駆者」から最新事例のご紹介をいただき、プリプレスが持つ課題、可能性、将来像を考察する。

プログラム

10:00～10:10

開会あいさつ

プリプレス研究会主査

10:10～11:10

ICT とデジタル化がプリプレスの進化に及ぼしてきたことを考察する

堀本邦芳 (ジーエーシティ(株))

ICT (Information Communication Technology) は「情報伝達技術」をいう。IT との違いは、業務の効率化を目的としたデジタル化、オフィスオートメーションのための情報技術 (IT) に対して、ICT は顧客を含めたコミュニケーションのデジタル化の技術を指している。

印刷業界は、アナログの時代から、この顧客や最終消費者を含めた情報コミュニケーションを紙に文字や画像を載せて伝える業務を行ってきたので、まさに ICT のコンテンツ作成を担っている。文字のデジタル化は写研やモリサワの電算写植から始まり、DTP のポストスクリプトフォントへ進化し、今では Windows、Mac、スマートフォンで利用されている。

またプリプレスのデジタル化は、CEPS から始まり、DTP の進化とともにイメージセッターを生み出し、CTP が始まった 1995 年からすでに 20 年を経て、ほぼ完全に移行が終わっている。画像の進化も 1990 年代 320x240pixel しかなかった画像サイズは、現在では 8688x5792pixel と約 5,060 万まで増えている。

この講演では、ICT の進化とデジタル化の進展が、プリプレス、印刷コンテンツ制作、ワークフローの進化にどのように作用したのかを整理し、Industry4.0 に向けて、今後のクラウド化、AI 化の影響を考える。

11:10～12:10

感性解析・嗜好性解析によるコンテンツ・パーソナライゼーションの新たな取り組み

宇井剛史(トッパン・フォームズ(株))

渡辺祐樹(SENSY (株))

一人ひとりの感性を解析し、最適なコミュニケーションを実現するための新たなパーソナライズ
の取組みについてご紹介する。

トッパン・フォームズ(株)が保有するデザイン嗜好性データベース「Ugocus Engine (ウゴカス
エンジン)」他、独自データベースを活用したクリエイティブ開発手法やコミュニケーション施策
の PDCA サイクルの中で当社が保有する独自技術やソリューション、取組みについてご紹介
する。

また、SENSY (株)のパーソナル人工知能「SENSY (センシー)」が持つ、感性特徴量解析ア
ルゴリズムによる商品レコメンド手法、様々な業界での採用事例についてご紹介する。

上記、両社の独自ビジネスのご紹介に加え、共同開発を進めている、デザインレイアウト、キャ
ッチコピー、VOC (Voice Of Customer)、オファー等あらゆるコンテンツを、感性をベースにパ
ーソナライズする「コンテンツ・パーソナライズエンジン」についての取組みをご紹介する。

<昼 食>

13:10~14:10

最後は一人で年商 10 億円の印刷会社を経営する

福田真太郎((株)真興社)

佐々浦映展((株)メディアテクノロジー ジャパン)

年々お客様の値下げ要求はとめどもなくつづき、最後に残された営業改革と生産管理体制
の見直しをご提案する。

セミナーでは(株)真興社が行っている Web Factory 構想の考え方と活用事例を具体的にご
説明する。併せて、(株)メディアテクノロジージャパンより、ワークフローの自動化を支援するワ
ークフローRIP EQUIOS の自動化対応機能をご紹介する。

14:10~15:10

利益を生むワークフロー変革とその実践

~Web 校正活用による業務コスト削減事例のご紹介~

中埜 翼((株)バドインターナショナル)

佐々木健至(富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(株))

印刷物制作において、ICT を活用することで企業間・拠点間を繋ぐことが可能となり、従来

の制作やプリプレスという枠を超えた「工程全体の最適化・自動化」が図れるようになった。

本セッションでは、(株)バドインターナショナルより、デザイン制作およびプリプレス工程の最適化・自動化の事例をご報告する。

デザイン制作では Web 校正システムを活用し、海外制作拠点とのやり取りにおける業務コスト削減事例、プリプレス工程ではワークフロー自動化による人員削減の成功事例をご紹介します。

また、富士フイルム グローバルグラフィックシステムズ(株)より、Web 校正を実現する XMF Remote の特長についてご紹介する。

<休憩>

15:30～16:30

出版・印刷業界でのクラウドコンテンツマネジメントの事例と今後の可能性

深見宗太郎((株)ジェイ エスキューブ)

辻村孝嗣((株)Box Japan)

クラウドコンテンツマネジメントプラットフォームを提供する Box はデジタルコンテンツの管理、保管において世界のデファクトスタンダードのソリューションになりつつある。国内の出版・印刷業界で Box が注目され急速に利用が進む背景と、実際の運用事例を実機によるデモを交えてご説明する。また、出版・印刷業界へ Box を提案していく中で見えてきた、業界特有の課題やワークライフバランス、働き方改革の課題にフォーカスしクラウドコンテンツマネジメントプラットフォームの活用の可能性に関してご説明する。

16:30～17:30

ICT/IoT 社会に向けて印刷会社が進む姿とは

宮本泰夫((株)バリューマシーンインターナショナル)

オンラインメディアの普及により、ペーパーメディアが逆風に晒される昨今、製造業である印刷会社には、また別の潮流が押し寄せている。今後迎えるであろう ICT/IoT 社会に向け、単なる自動化やオンライン化ではなく、ビジネスや製造業の側面から社会の中で印刷会社が進む姿を展望してみる。

①クライアント・マーケットが求めるニーズ

(デジタルマーケティング、マーケティングオートメーション、POD による即納やバージョンアップ等の機能付加)

②印刷会社が直面している課題や潮流

(利益確保やニーズ対応は、製造のみならず印刷営業でも変化が必要である)

③海外含めた先端事例

(ロボット化などの即物的な施策、もっとインテリジェンスな対応・変わり身、それをささえる技術の動向)

④アドバンス

(印刷会社が社会に提供するサービスも単なるデータ加工や紙印刷だけではなく、ICT/IoT がもたらす新たなビジネスがある)

主催:(一社)日本印刷学会 技術委員会 プリプレス研究会

日時:2017年11月17日(金) 10:00~17:30(受付開始:9:30)

会場:日本印刷会館 〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8

参加費:会員・協賛会員 9,000 円、非会員 12,000 円。当日会場受付でお支払下さい。

申込方法:日本印刷学会のホームページの[フォーム](#)から参加登録をお願いします。

本シンポジウムを選択してお申し込みください。E-mail またはファックスでも結構です(氏名、所属、連絡先、会員の有無を記入ください)。

連絡先:(一社)日本印刷学会 事務局

〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 日本印刷会館内

電話:03-3551-1808 FAX:03-3552-7206 E-mail:nijspst-h@attglobal.net

お断り:事情によりプログラムまたは講師を変更する場合があります。